

滞在理由の異なる外国人への親近感の違いとその規定要因

園田薫（人文社会系研究科博士課程 3 年）

1 問題背景

近年日本でも外国人労働者への受け入れが盛んに議論されるとともに、実際に日本で暮らす外国人の数も増加している。法務省によると、平成 29 年時点にて日本で暮らす在留外国人数は 256 万人にのぼり、総人口の約 2%を占めている。さらに日本の人口が減少に向かっている一方で、外国人の人口は単調増加を続けていることから、外国人との共生というテーマはますます重要性を帯びるだろう。入管法の改正にもなって外国人のさらなる増加傾向も見込まれ、さらに多様な外国人が日本で生活するようになると予想される。

そこで本論文では、滞在理由の違う多様な外国人に対して、川崎住民が親しみやすさ/親しみにくさをどのように感じているのかを計量的に明らかにすることを目的とする。特定の外国人ではなく、あるカテゴリーの外国人に対する親しみやすさの傾向を分析することで、こういった種類の外国人に対して住民が親近感を覚え、それを規定する要因は何かを推測することができる。

本論文では、こうした関心のもとで、川崎住民を調査対象とした「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」のデータを用いた。川崎での調査を用いたのは、川崎 7 地区において居住する外国人数や地域内の外国人率が異なるため、7 地区の比較のなかで外国人に対する親しみがどのように異なるのかを検証できるからである。次節では、外国人寛容度に関する既存の研究を概括しながら、川崎調査データの特徴とそのデータを用いる利点を検討する。

2 先行研究と本研究の視座

外国人に対する寛容度に関する研究は、主に計量的なアプローチから蓄積され、様々な要因が外国人への寛容さに影響することが指摘されてきた。例えば個人の基礎的な属性変数では、年齢が外国人寛容度に負の効果を持つこと（鐘ヶ江 2001；Nukaga 2006；寺島・本田 2009）、男性であることが外国人寛容度に正の効果を持つこと（松本 2006）、学歴が外国人寛容度に正の効果を持つことなどが検証された（伊藤 2000；鐘ヶ江 2001；大槻 2006；Nukaga 2006）。さらにホワイトカラーに比べてブルーカラーとして働く人ほど外

国人に対して寛容ではないこと（田辺 2002；濱田 2008）、女性に関しては多様なパーソナルネットワークを持つ人ほど外国人に対して寛容であること（伊藤 2000）などが指摘されてきた。他にも、外国人との接触頻度が高ければ高いほど外国人への寛容度が高まるという「接触仮説」（Allport 1954=1961）は様々な研究によって支持されており（大槻 2006；Nukaga 2006；濱田 2008；永吉 2008）、外国の文化に対する嗜好を持つ人ほど外国人に対する寛容度が高いことも広く検証されている（大槻 2007；寺島・本田 2009）。個人の諸要因だけでなく、集団的な変数も外国人寛容度に寄与することが示唆されてきた。例えば居住地によって外国人の寛容度が異なり（松本 2004, 2006；大槻 2006）、個人の要因を統制してもその地域に住む外国人の比率が外国人寛容度に影響することが報告されている（中澤 2007；濱田 2008）。

表 1 川崎 7 地区における管区別年齢別の外国人数・外国人比率

	0～14 歳		15～64 歳		65 歳～		合計	
	外国人数	外国人比率	外国人数	外国人比率	外国人数	外国人比率	外国人数	外国人比率
川崎区	1772	6.62%	12980	8.38%	1096	2.12%	15848	6.79%
中原区	401	1.17%	4940	2.73%	226	0.57%	5567	2.19%
麻生区	232	0.98%	2292	2.04%	109	0.27%	2633	1.49%
幸区	569	2.50%	4202	3.87%	257	0.71%	5028	3.00%
高津区	371	1.22%	4043	2.59%	218	0.52%	4632	2.03%
宮前区	294	0.90%	2959	1.95%	164	0.35%	3417	1.48%
多摩区	301	1.27%	4100	2.85%	138	0.33%	4539	2.17%

出典：川崎市管区別年齢別外国人住民人口データより著者作成

そこで本論文では、主に 2 つの点に注目したい。まずは、調査対象とした川崎の 7 地区は居住する外国人数や外国人率が異なっているが、こうした差異は外国人への親近感に影響するのかという点である。表 1 は平成 30 年の川崎 7 地区における管区別年齢別の外国人人口と外国人比率を示したものである。表 1 からは、川崎 7 地区内でも外国人数・外国人比率の差が大きく、全国的にみても外国人比率が非常に高い川崎区（6.79%）や幸区（3.00%）がある一方で、全国的な外国人比率の平均値である 2% よりも低い麻生区（1.49%）や宮前区（1.48%）を含んでいることがわかる。川崎市内における分散が大きいため、川崎 7 地区を対象にした本調査のデータを用いることで、居住地域の差が外国人への親近感に影響しているのかを十分に検討することができる。川崎市を対象とした外国人

寛容度に関する研究に川崎区と宮前区を調査した鐘ヶ江（2001）があり、そこでは川崎区よりも宮前区の住民において外国人に対する排斥感情が少ない傾向があると指摘されている。この傾向は何によって説明されるのだろうか。本論文においては外国人比率を変数として投入し、さらに地域ごとに同一の分散を仮定しないモデルを採用することによって、居住地域の差が外国人への親近感に影響するのかを検討する。

くわえて、「外国人」のカテゴリーが指す内容を細分化する際に、既存の研究では主にエスニック・グループの差によって住民の寛容度が異なるのかに注目してきた（山本・松宮 2010；大槻 2009）。本論文では外国人の滞在理由の違いに着目する。外国人の受け入れや親近感には、外国人がどの国の出身なのかだけでなく、外国人がどういった立場で日本に滞在しているのかという要素が関連しているはずである。例えば、外国人が観光客として日本に滞在する場合と、単純労働者として日本に滞在する場合では、その親近感や寛容度も異なるはずである。そこで本論文では、外国人の滞在理由の違いによって住民の感じる親しさは異なるのか、そしてその外国人への親近感を規定する要因は外国人のカテゴリーごとに異なるのかを検討する。

3 用いた変数とモデルの説明

以上の2つの分析視角を考慮したとき、居住地区の多様性が担保されており、外国人の立場ごとに親近感が尋ねられている「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」データが本論文の分析に最適であると考えられる。分析の中心にすえる変数は、外国人に対する親しみをどの程度感じているのかを外国人の滞在理由ごとに尋ねている質問である。この質問では、特別永住権をもつ外国人、結婚で日本に移住した外国人、単純労働に従事する外国人、高度専門職に従事する外国人、外国人観光客、外国人留学生、日系人の7カテゴリーに対して、それぞれの外国人への親近感を分析できる。

まずは、このカテゴリー別の外国人への親近感が居住地区によって異なるのかを鳥瞰する。表2は川崎7地区ごとに外国人への親近感の平均値と標準偏差をカテゴリー別に示したものである。表2からは、居住地区によって各カテゴリーの外国人に対する親近感が異なること、そして滞在理由の違いによって住民が覚える親近感が異なることが読み取れる。単純労働者や特別永住権をもつ外国人に対する親近感が相対的に低く、結婚で日本に移住した外国人や留学生に対しては相対的に高い値を示している。一方居住地区ごとにみると、注目に値するのは外国人数と外国人比率がともに高い幸区、川崎区において平均的に外国人への親しみを感じていないことであり、特に幸区は単純労働者に対する意識を除いて7地区のなかで最も低い値を示している。中原区は結婚相手、観光客、留学生、日系

人に対する親近感は7地区のなかで最も高い値を示しているにもかかわらず、単純労働者に対する親しみは7地区のなかで最も低い。鐘ヶ江（2001）の指摘するように、宮前区は川崎区に比べて全体的に外国人への寛容度が高い傾向があるが、観光客と日系人に対しては川崎区の方が親しみを感じていることがわかる。

表2 カテゴリー別外国人への親近感の平均・標準偏差

	永住権		結婚相手		単純労働		専門職		観光客		留学生		日系人	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
川崎区	3.15	0.98	3.48	0.90	3.00	0.83	3.36	0.82	3.35	0.91	3.50	0.85	3.50	0.81
中原区	3.24	1.04	3.64	0.93	2.92	0.92	3.45	0.95	3.42	0.96	3.58	0.96	3.63	0.90
麻生区	3.29	1.00	3.62	0.90	2.97	0.96	3.40	0.93	3.36	0.94	3.55	0.91	3.52	0.92
幸区	2.99	1.02	3.37	0.95	2.97	0.87	3.29	0.88	3.24	0.97	3.32	0.96	3.36	0.88
高津区	3.21	0.95	3.60	0.93	3.09	0.92	3.44	0.90	3.35	0.97	3.56	0.93	3.52	0.89
宮前区	3.22	1.03	3.57	0.93	3.05	0.97	3.41	0.89	3.34	1.01	3.56	0.92	3.45	0.96
多摩区	3.22	1.03	3.59	0.95	3.02	0.96	3.47	0.90	3.33	0.98	3.53	0.92	3.58	0.90
合計	3.19	1.01	3.55	0.93	3.00	0.92	3.40	0.90	3.34	0.96	3.52	0.93	3.51	0.90

つづいて、カテゴリー別の外国人への親近感を従属変数とした回帰分析を用いて、それを規定する要因について分析する。独立変数は、各モデルで段階的に投入する。まずはモデル1として年齢、性別、居住年数、従業上の地位、仕事内容、世帯年収、教育年数などの個人がもつ基礎的な属性変数のみで外国人への親近感を回帰するモデルを想定する。先行研究から推測すると、モデル1に投入する変数では年齢、性別、仕事内容、教育年数が外国人への親近感と関連することが予想される。モデル2にはモデル1の変数にくわえて外国人・外国文化との接触頻度¹、一般的な外国人に対する寛容度²を投入する。このどちらの要素も外国人への親近感に正の影響を与えていると考えられる。そしてモデル3ではモデル2の変数だけでなく居住地域の外国人比率を独立変数に加え、個人の要素を統制したうえで居住地域の効果が外国人への親近感に影響しているのかを検討する。地域変数で

¹ 問18の1から6を足し合わせて変数化した（クロンバックの $\alpha=0.80$ ）。

² 問16の1から4を足し合わせて変数化した（クロンバックの $\alpha=0.90$ ）。

ある外国人比率を除き、分析に用いた独立変数の基礎統計量は表 3 にて示している。これらの変数が、外国人に対する親近感にどのように影響しているのかを分析していく。

表 3 分析に用いる独立変数の基礎統計量

変数名	N	平均	標準偏差
性別	2,440	0.461	0.499
年齢	2,424	54.719	17.827
教育年数	2,340	13.800	2.284
世帯年収	1,725	793.449	654.409
居住年数	2,418	20.815	18.956
従業上の地位	2,332	3.706	2.597
仕事内容	1,543	3.234	1.997
外国人一般への寛容度	2,347	13.060	3.425
外国人・外国文化との接触頻度	2,352	13.855	4.129

外国人寛容度における地域の効果を測定するうえでマルチレベル分析が一般的な手法として知られるが（中澤 2007）、本論文ではマルチレベル分析を採用せず、7地区のクラスターで同一の標準誤差を仮定しないモデルを採用する。なぜならば、今回の分析では7地区内の差異を重視しているので、仮に7地区をマルチレベルモデリングのレベル2に組み込んでしまうとカテゴリーの数が少なく、十分な自由度が担保されないからである。そのため、本論文では7地区内での残差の独立性を仮定せず、クラスター化標準誤差を用いることで³係数の標準誤差を修正している。

4 分析結果

滞在理由別の外国人への親近感を従属変数とした回帰分析の結果が表 4 と表 5 である。表 4 では特別永住権をもつ外国人、結婚で日本に移住した外国人、単純労働に従事する外国人、高度専門職に従事する外国人への親近感を従属変数としており、表 5 では観光客、留学生、日系人への親近感を従属変数としている。まず表 4 と表 5 から、外国人一般への寛

³ STATA を用い、VCE オプションにてクラスター化標準誤差を計算した。分析結果に示されている標準誤差は、すべて川崎 7 地区のクラスターをもとに算出されている。マルチレベルモデリングとクラスター化標準誤差に関しては、Primo et al. (2007) を参照。

容度と外国人・外国文化との接触頻度は、どの外国人に対しても親近感を高める要因となっていた。特に外国人・外国文化との接触頻度に関しては、先行研究の指摘と同様の結果となった。その一方で、永住権をもつ外国人、結婚で日本に移住した外国人、留学生に対しては男性ダミーが有意な負の効果をもっていた。既存の研究では男性の方が外国人への寛容度が高いことが指摘されていたが、今回の分析では女性の方が外国人への親近感があることが示唆された。この差異は外国人「寛容度」と外国人「親近感」というワーディングの違いによって生じている可能性もあるが、外国人寛容度の質問に対して同様の回帰分析を試みたところ、国際結婚で身内に外国人を受け入れること、特別永住外国人に地方参政権を与えることの2変数に対して男性ダミーが有意な負の効果をもっていたことから、川崎市住民の特徴である可能性が高い。また観光客、留学生、日系人に対する親近感には、先行研究とは異なり年齢が正の効果をもっていた。しかし外国人寛容度の質問に対して同様の回帰分析を試みると、年齢は有意な負の効果をもっており、あくまで女性の方があるカテゴリーの外国人に対して親近感があるという結果だと解釈できる。

地域変数である外国人比率は、永住権をもつ外国人に対する親近感には1%有意、結婚で日本に移住した外国人に対する親近感には5%有意でそれぞれ影響していた。どちらの変数に対しても有意な負の効果があり、外国人比率が高い地区の人々ほどこれらの外国人への親しみを感じていないという結果となった。一方で有意ではないが、外国人観光客に対しては正の効果をもっており、外国人比率の高い地区に住む人々は外国人観光客に対してより親しみを感じていた。

個別の滞在理由についてみると、外国人の滞在理由によって親近感に影響する変数が異なることがわかる。永住権をもつ外国人への親近感に対しては、性別と居住年数と仕事内容が影響しており、女性や居住年数の長い人、管理職、生産現場・技能職、運輸・保安職に就く人の方が永住外国人への親近感が強い傾向があった。単純労働に従事する外国人への親近感、世帯年収の低い人や販売職に従事する人に有意に高くみられた。専門職に従事する外国人は、常時雇用をレファレンス・カテゴリーとしたときに臨時・パート・アルバイト、その他の従業上の地位にある人々にとって親しみの薄い存在であるといえる。観光客への親近感、年齢と従業上の地位が有意な関係にあり、年齢が低い人や臨時・パート・アルバイト、契約社員が親しみにくいと感じる傾向がある。留学生に親近感を覚えるのは女性や年配者、教育年数や居住年数の多い人、従業上の地位がその他の人や販売職に従事する人である。従業上の地位の「その他」には、学生などが含まれているので、同じ学生の子供である留学生に親しみを感ずやすいのだと解釈できる。日系人への親近感、年齢、販売職、仕事内容の「その他」に有意な関係がみられる。このように、滞在理

表4 外国人への親近感を従属変数とした回帰分析（永住権保持者、結婚相手、単純労働者、専門職従事者）

	永住権						結婚相手						単純労働						専門職					
	model.1		model.2		model.3		model.1		model.2		model.3		model.1		model.2		model.3		model.1		model.2		model.3	
	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.
切片	2.731	0.352 **	0.508	0.402	0.687	0.420	3.458	0.411 **	1.536	0.410 **	1.664	0.438 **	2.738	0.308 **	0.746	0.294 *	0.764	0.332 †	3.006	0.334 **	1.233	0.374 *	1.305	0.410 *
性別	-0.335	0.049 **	-0.264	0.040 **	-0.264	0.040 **	-0.284	0.045 **	-0.221	0.037 **	-0.221	0.037 **	-0.089	0.054	-0.025	0.053	-0.025	0.053	-0.125	0.063 †	-0.068	0.054	-0.068	0.054
年齢	-0.002	0.003	0.003	0.002	0.003	0.002	-0.004	0.003	0.000	0.002	0.000	0.002	-0.001	0.002	0.003	0.002	0.003	0.002	0.000	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003
教育年数	0.046	0.022 †	0.020	0.019	0.016	0.019	0.035	0.025	0.010	0.020	0.007	0.021	0.035	0.022	0.013	0.018	0.012	0.019	0.044	0.019 †	0.016	0.017	0.015	0.017
世帯年収	-0.000	0.000	-0.000	0.000	-0.000	0.000	0.000	0.000	-0.000	0.000	-0.000	0.000	0.000	0.000	-0.000	0.000 †	-0.000	0.000 †	0.000	0.000	-0.000	0.000	0.000	0.000
居住年数	0.002	0.001	0.004	0.002 †	0.004	0.002 †	0.000	0.001	0.002	0.002	0.003	0.002	0.001	0.001	0.003	0.002	0.003	0.002	0.000	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002
従業上の地位																								
常時雇用	(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)	
自営・自由業	0.170	0.098	-0.027	0.069	-0.031	0.068	0.177	0.078 †	0.001	0.068	0.000	0.066	0.086	0.085	-0.088	0.070	-0.088	0.069	0.031	0.109	-0.143	0.109	-0.144	0.108
臨時・パート・アルバイト	-0.103	0.132	-0.114	0.091	-0.120	0.090	-0.110	0.109	-0.121	0.075	-0.125	0.073	-0.186	0.144	-0.200	0.112	-0.201	0.111	-0.264	0.113 †	-0.274	0.098 *	-0.277	0.097 *
派遣社員	0.071	0.116	0.047	0.133	0.045	0.135	-0.107	0.163	-0.136	0.193	-0.137	0.193	0.122	0.096	0.098	0.062	0.097	0.062	0.128	0.120	0.092	0.113	0.092	0.114
契約社員	0.158	0.118	0.083	0.151	0.078	0.151	-0.052	0.066	-0.113	0.095	-0.117	0.094	0.126	0.093	0.060	0.076	0.060	0.076	-0.083	0.092	-0.137	0.119	-0.138	0.119
その他	-0.546	0.516	-0.519	0.282	-0.527	0.283	0.002	0.435	0.000	0.232	-0.006	0.234	-0.063	0.281	-0.052	0.101	-0.053	0.103	-0.223	0.190	-0.250	0.097 *	-0.253	0.096 *
仕事内容																								
専門職・技術職	(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)	
管理職	0.152	0.086	0.146	0.071 †	0.141	0.072 †	0.085	0.041 †	0.066	0.053	0.063	0.054	-0.096	0.068	-0.109	0.099	-0.109	0.099	-0.129	0.066 †	-0.157	0.087	-0.158	0.086
事務職	0.021	0.087	0.133	0.089	0.127	0.093	0.027	0.115	0.121	0.103	0.117	0.107	-0.168	0.081 †	-0.070	0.079	-0.070	0.080	-0.203	0.082 *	-0.119	0.089	-0.121	0.090
販売職	0.110	0.103	0.166	0.090	0.153	0.095	0.097	0.103	0.139	0.097	0.130	0.104	0.105	0.107	0.150	0.071 †	0.148	0.072 †	-0.029	0.067	0.002	0.064	-0.003	0.065
サービス職	-0.015	0.124	0.008	0.104	0.020	0.109	-0.093	0.125	-0.054	0.102	-0.058	0.107	0.092	0.122	0.124	0.089	0.123	0.090	-0.065	0.138	-0.016	0.120	-0.018	0.121
生産現場・技能職	0.197	0.139	0.348	0.147 †	0.353	0.149 †	-0.026	0.180	0.111	0.179	0.114	0.180	-0.128	0.076	0.010	0.085	0.010	0.085	-0.178	0.115	-0.043	0.103	-0.041	0.103
運輸・保安職	0.056	0.106	0.205	0.095 †	0.207	0.091 †	-0.007	0.112	0.134	0.146	0.136	0.143	-0.201	0.146	-0.066	0.113	-0.065	0.113	-0.368	0.127 *	-0.221	0.128	-0.220	0.128
その他	0.292	0.157	0.296	0.138 †	0.304	0.131 †	-0.142	0.224	-0.146	0.188	-0.140	0.181	-0.058	0.190	-0.055	0.140	-0.054	0.140	-0.146	0.182	-0.159	0.130	-0.156	0.127
外国人一般への寛容度			0.148	0.011 **	0.147	0.011 **			0.115	0.011 **	0.114	0.010 **			0.126	0.007 **	0.126	0.007 **			0.094	0.010 **	0.094	0.010 **
外国人・外国文化との接触頻度			0.024	0.004 **	0.023	0.004 **			0.035	0.007 **	0.035	0.008 **			0.027	0.008 **	0.027	0.008 **			0.049	0.005 **	0.049	0.005 **
外国人比率					-3.031	0.594 **					-2.166	0.837 *					-0.313	1.075					-1.207	1.026
N	1130		1130		1130		1136		1136		1136		1135		1135		1135		1135		1135		1135	
R2乗	0.031		0.288		0.290		0.036		0.260		0.262		0.026		0.268		0.268		0.040		0.246		0.247	
調整済みR2乗	0.016		0.276		0.277		0.021		0.248		0.249		0.011		0.255		0.255		0.025		0.233		0.233	

** 1%有意、 * 5%有意、 † 10%有意

表5 外国人への親近感を従属変数とした回帰分析（観光客、留学生、日系人）

	観光客						留学生						日系人						
	model.1		model.2		model.3		model.1		model.2		model.3		model.1		model.2		model.3		
	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	β	S.E.	
切片	2.403	0.330 **	0.659	0.304 †	0.572	0.314	2.425	0.347 **	0.613	0.377	0.616	0.392	2.555	0.339 **	0.987	0.361 *	1.007	0.413 †	
性別	-0.074	0.067	-0.017	0.060	-0.017	0.060	-0.158	0.050 *	-0.100	0.042 †	-0.100	0.042 †	-0.074	0.028 *	-0.024	0.025	-0.024	0.025	
年齢	0.003	0.002	0.006	0.002 *	0.006	0.002 *	0.003	0.002	0.007	0.001 **	0.007	0.001 **	0.008	0.003 *	0.011	0.003 **	0.011	0.003 **	
教育年数	0.064	0.024 *	0.030	0.020	0.032	0.020	0.071	0.024 *	0.042	0.020 †	0.042	0.020 †	0.042	0.020 †	0.017	0.019	0.016	0.019	
世帯年収	0.000	0.000	-0.000	0.000	-0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	-0.000	0.000	-0.000	0.000	
居住年数	-0.001	0.002	0.001	0.002	0.001	0.002	0.000	0.001	0.003	0.001 †	0.003	0.001 †	-0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	
従業上の地位																			
常時雇用	(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		
自営・自由業	0.157	0.144	-0.032	0.125	-0.031	0.125	0.098	0.112	-0.082	0.101	-0.082	0.101	0.236	0.088 *	0.078	0.074	0.078	0.074	
臨時・パート・アルバイト	-0.100	0.063	-0.109	0.047 †	-0.106	0.046 †	-0.137	0.091	-0.147	0.080	-0.147	0.079	-0.068	0.067	-0.076	0.052	-0.077	0.050	
派遣社員	0.046	0.149	-0.003	0.116	-0.002	0.115	-0.028	0.132	-0.067	0.156	-0.067	0.156	-0.101	0.146	-0.137	0.137	-0.139	0.137	
契約社員	-0.129	0.099	-0.178	0.047 **	-0.176	0.048 **	0.014	0.096	-0.047	0.061	-0.047	0.061	0.149	0.089	0.097	0.064	0.096	0.066	
その他	0.334	0.409	0.276	0.273	0.279	0.272	0.431	0.315	0.406	0.149 *	0.405	0.149 *	0.378	0.288	0.352	0.204	0.351	0.206	
仕事内容																			
専門職・技術職	(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		(ref.)		
管理職	0.012	0.107	-0.030	0.113	-0.028	0.113	0.038	0.090	0.008	0.109	0.008	0.109	0.066	0.063	0.038	0.077	0.038	0.076	
事務職	0.007	0.058	0.087	0.062	0.090	0.061	0.011	0.070	0.097	0.081	0.097	0.081	0.020	0.051	0.094	0.057	0.093	0.059	
販売職	0.024	0.093	0.055	0.069	0.061	0.071	0.115	0.063	0.151	0.047 *	0.151	0.048 *	0.106	0.085	0.136	0.061 †	0.135	0.061 †	
サービス職	0.010	0.114	0.075	0.091	0.078	0.090	-0.029	0.103	0.022	0.083	0.022	0.084	-0.069	0.115	-0.023	0.102	-0.023	0.104	
生産現場・技能職	-0.147	0.182	-0.004	0.198	-0.006	0.199	-0.052	0.202	0.088	0.211	0.088	0.210	-0.144	0.167	-0.021	0.174	-0.021	0.174	
運輸・保安職	-0.107	0.144	0.059	0.146	0.057	0.148	0.046	0.144	0.199	0.144	0.199	0.144	-0.063	0.080	0.073	0.078	0.073	0.078	
その他	-0.050	0.126	-0.077	0.059	-0.081	0.058	-0.136	0.086	-0.170	0.093	-0.170	0.092 †	-0.295	0.165	-0.327	0.127 *	-0.326	0.128 *	
外国人一般への寛容度			0.078	0.013 **	0.078	0.013 **			0.095	0.007 **	0.095	0.007 **			0.080	0.006 **	0.080	0.006 **	
外国人・外国文化との接触頻度			0.070	0.008 **	0.071	0.009 **			0.052	0.006 **	0.052	0.006 **			0.048	0.007 **	0.047	0.007 **	
外国人比率					1.465	1.036							-0.048	0.392				-0.328	1.335
N	1137		1137		1137		1136		1136		1136		1136		1136		1136		
R2乗	0.028		0.217		0.218		0.039		0.250		0.250		0.039		0.211		0.211		
調整済みR2乗	0.013		0.204		0.204		0.024		0.237		0.237		0.024		0.198		0.197		

** 1%有意、 * 5%有意、 † 10%有意

由の異なる外国人への親近感に対して、それぞれ異なる個人の属性が影響を与えていることが明らかになった。

5 論点の整理と今後の課題

本論文では、主に2つの課題を検討することを試みた。居住外国人数や外国人率が異なる川崎7地区にて外国人への親近感は異なるのか、そして外国人に対する親近感の滞在理由の違いによって異なり、その規定要因も異なるのかという点である。それぞれの課題を検討した結果、以下のような結果が得られた。まず、7地区のなかでも外国人率の高い幸区にて外国人への親近感が低い傾向がみられるなど、外国人比率が負の影響を与えていることが示唆された。この傾向は観光客を除く外国人を従属変数とした回帰分析の結果からも導かれたものの、その係数が有意になったのは永住権をもつ外国人と結婚で日本に移住した外国人のみであった。つづいて滞在理由別に外国人への親近感を俯瞰すると、単純労働者や特別永住権をもつ外国人に対する親近感が相対的に薄い傾向があった。そして回帰分析からは、それぞれの滞在理由別に外国人への親近感を規定する要因が異なっていることが明らかになった。特筆すべき点として、先行研究の指摘とは異なり男性であることが外国人への親近感に有意な負の影響を与えていた。この点は外国人寛容度に関する質問からも同様の傾向がみられることから、本論文のデータが明らかにした川崎市住民の特徴であるといえるだろう。また従業上の地位が専門職に従事する外国人や外国人観光客に、仕事内容が永住権を持つ外国人、単純労働に従事する外国人、留学生や日系人に対する親近感に影響している点も本論文が検証した興味深い知見である。

今回の分析では、既存研究の多くが注目してきた外国人「寛容度」ではなく、外国人への「親近感」を分析の主眼に置いていたため、この分析結果から得られたものが川崎独自の特性であると断定することは難しい。しかし、川崎7地区の分析を通して外国人比率の高い地域において外国人への排斥感情が高い傾向があること、性別が先行研究と異なる影響を与える可能性があること、外国人への親近感とその滞在理由によって異なり、それを規定する個人の属性も異なることが明らかとなった。今後はこの結果が川崎市データ以外にも検討されうるのかを分析することで、川崎市の事例を相対的に位置づけていく必要があるだろう。

文献

Allport, G. W., 1954, *The Nature of Prejudice*, Mass: Addison-Wesley. (=1961, 原谷達夫・野村昭訳『偏見の心理』培風館。)

- 濱田国佑, 2008, 「外国人住民に対する日本人住民意識の変遷とその規定要因」『社会学評論』59(1): 216-31.
- 伊藤泰郎, 2000, 「社会意識とパーソナルネットワーク」森岡清志編『都市社会のパーソナルネットワークの構造と変容』東京大学出版会, 141-59.
- 鐘ヶ江晴彦, 2001, 「外国人労働者をめぐる住民意識の現状とその規定要因」鐘ヶ江晴彦編『外国人労働者の人権と地域社会』明石書店, 18-80.
- 松本康, 2004, 「外国人と暮らす——外国人に対する地域社会の寛容度」松本康編『東京で暮らす——都市社会構造と社会意識』東京都立大学出版会, 197-219.
- , 2006, 「地域社会における外国人への寛容度——隣人ネットワークが媒介する居住地効果」広田康生・町村敬志・田嶋淳子・渡戸一郎編『先端都市社会学の地平』ハーベスト社, 8-32.
- 永吉希久子, 2008, 「排外意識に対する接触と脅威認知の効果」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集』7: 259-70.
- 中澤涉, 2007, 「在日外国人の多寡と外国人に対する偏見との関係」『ソシオロジ』52(2): 75-91.
- Nukaga, M., 2006, “Xenophobia and the Effect of Education,” 大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集』5: 191-202.
- 大槻茂実, 2006, 「外国人接触と外国人意識」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集』5: 149-59.
- , 2007, 「外国人の増加に対する日本人の見解」『社会学論考』28: 1-25.
- , 2009, 「「外国人」とは誰か——外国人増加意識における「外国人」カテゴリーの検討」『年報社会学論集』22: 92-102.
- Primo, D. M., Jacobsmeier, M. L. and J. Milyo, 2007, “Estimating the Impact of State Policies and Institutions with Mixed-Level Data,” *State Politics & Policy Quarterly*, 7(4): 446-59.
- 田辺俊介, 2002, 「外国人への排他性とパーソナルネットワーク」森岡清志編『パーソナルネットワークの構造と変容』東京大学出版会, 101-20.
- 寺島拓幸・本田量久, 2009, 「グローバル化する消費嗜好と外国人に対する意識」『応用社会学研究』51: 157-66.
- 山本かほり・松宮朝, 2010, 「外国籍住民集住都市における日本人住民の外国人意識」『日本都市社会学学会年報』28: 117-34.